

第174回 芥川賞・直木賞が、令和8年1月14日に発表されました。受賞作、候補作、所蔵についてご紹介します。

芥川賞

『時の家』 鳥山 まこと (講談社) / 913.6 ト

青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。ある家の記憶を、建築士でもある作者がディテールにこだわり描写し尽くす。

他の所蔵作品：『駅と旅』 / B 913.6 エ (6人の作家によるアンソロジー)



『叫び』 畠山 丑雄 (新潮社)

所蔵なし *所蔵予定あり

早野ひかるは「先生」に打ちのめされ、銅鐸と土地の来歴を学び始める。ここではかつて罌粟(けし)栽培と阿片製造が盛んで、満州にわたり、紀元2600年記念の万博を楽しみしていた青年がいた。主人公と土地の記憶の、交わりが描かれる。

他の所蔵作品：『地の底の記憶』 『改元』 / 913.6 ハ



直木賞

『カフェーの帰り道』 嶋津 輝 (東京創元社) / 913.6 シ

流行りに乗り切れない、長閑な「カフェー西行」で、女給たちは朗らかに働いた。時代を映す鏡であった仕事「女給」を通し、大正から昭和にかけて時代に翻弄されても朗らかに生きる個性豊かな、「百年前のわたしたちの物語」。

他の所蔵作品：『スナック墓場』 『襷がけの二人』 / 913.6 シ



●芥川賞 候補作

『貝殻航路』 久栖 博季 / 「文藝界」2025年12月号

『へび』 坂崎 かおる / 「文藝界」2025年10月号

『BOXBOXBOXBOX』 坂本 湾 / 913.6 サ

●直木賞 候補作

『白鷺立つ』 住田 祐 / 913.6 ス

『神都の証人』 大門 剛明 / 913.6 ダ

『家族』 葉真中 顕 / 913.6 ハ

『女王様の電話番』 渡辺 優 / 913.6 ワ



2月の休館日……毎週月曜日 と 2月26日(木)